第14回日本の農業と食を考えるシンポジウム

自然農業実践例など盛沢山

土壌改良で御古菌を絶賛

若い人、農業をやろう！

家庭菜園が一番　食料の備蓄が重要に

第14回日本の農業と食を考えるシポジウムは静岡県においてオープンニングセレモニーが終えた後、メイン会場になった東京・世田谷区用賀のＣＨｈｏｍ東京校において事例報告、リレー報告、由井寅子代表の基調講演などを行った。

東北での自然農への取り組みをテーマに語る橋本孝子さん

食料を備蓄しようと語る井手麻子さん

お金に頼らない自然農という生き方をテーマに話す岡本よりたか氏

除草剤がかかったニンニク。除草剤の怖さ、人体に影響あると橋本さんは話す。

事例発表のトップバッターは宮城県仙台市の橋本孝子さん。テーマは「半農・半X」東北での自然農への取り組み。～鍼灸とレメディーで交通事故の自身の大怪我が回復～。

自分の健康は自分で守ろう、をモットーにホメオパス、鍼灸師として活動させて貰っています。

私の農業の拠点は実家のある秋田県雄勝郡羽後町にあります。父は一人では大きすぎる畑を持っており、約40年前から無農薬にこだわりアスパラ、キュウリ、梨、ニンニクを作り続けて現在に至っております。その父が怒った口調で電話をかけてきたのです。大事に育てたニンニクが酷い状態になっているという内容だったのです。隣の農家さんは父に感化され農薬や除草剤を使わなかったのですが、農地を手放したため全く面識のない方が父の畑との境目の雑草があるところに除草剤をまいたのでした。それが父のニンニクの一部分が奇形という酷い影響を受けちゃたんです。皆んなビックリして見ました。除草剤の怖さ、人体に影響あるということです。

父は早速、お隣さんにこれを持って理解と説明に走って行きました。

私が農業をしようと思ったキッカケは2016年の9月に父から固いカボチャを送って来てくれたのです。包丁で切れないのでノコギリで切って食べてみたのです。美味しく甘かったのです。

私は農業に興味がなかったのですが、たった一粒の種から何十個もこんな美味しいカボチャが取れるということに感動して一挙に農業に興味を持ちました。2017年からカボチャを育ててみようと思ったのです。2018年からホメオパシーと植物酵素を組み合わせたアクティブプラントを使ってみました。アクティブプラントを薄めてその中にカボチャの種を入れて、カボチャの根にアクティブプラントをかけていきました。かけないところと比べると明らかに違いが出て、父はホメオパシーについて知らないが、物質がないのに凄いねとすぐ分かってくれました。

2019年の6月に初めて黒ニンニクを食べたのです。最初はプルンと思って、これ美味しいねと、これニンニクというのでビックリして。父が自分のためにと作っていたニンニクがありまして、私もお試しに作っていったのです。だんだん上手に作れるようになりました。

御古菌様と出合い

2020年の秋には御古菌様と出会い、強烈なパワーを1000個を植えていたニンニクにかけたんです。そうしたら2021年にガッチリ雪の中で冬眠して生きているわけですよ。6月から収穫になるんです。普通は50グラム位ですが、御古菌様を使うようになったら70グラム、100グラム超えというものも出てくるようになったのです。

ビックリして小さいものの3倍位に。何だこれはと。御古菌様を使って、今年も大きくなっています。近所の農家さんもなんでこんなに大きいものになるのと、御古菌様が秋田で広まって来るのではと思っています。

死んだと思いました

話は変わってですね。実は2月に大阪に出張して仙台に戻ってきた時、北海道の友達が誕生日会をやるから来なさいというので行ったのです。まあ、一次会、二次会となったんです。泊まるところに送って行ったのです。中央分離帯に思い切りぶつかっていったんですね。オデコを強打したんです。そうしたら目が見えなく死んだと思いました。駄目だこりゃと。だんだん目が見えるようになってきて、車を戻していたら友達が大丈夫、大丈夫というのです。大丈夫じゃないと言って車から降りたのですが、自分の中でパニックを起こしているんですね。記憶がないんです。自分はさっきまで何をしていたのか覚えていないのです。記憶喪失になっちゃたんですね。自分のバックの中に36基本キットがあることを覚えていたのです。それを取り出してとったのです。次の日、頭が痛い、むち打ちの症状もレメディーをとり、病院で事故のことを忘れてもいいと言われました。本当にレメディーは凄いということを改めて知ることができました。

今後は、それぞれの作物に合わせて、虫や容器を防ぐレメディーを見つけて、ホメオパシーを活用した農業に取り組みたいと思っています。

家族で八ヶ岳に移住

次に山梨県八ヶ岳に新規就農者として家族で移住して自然農を始めたという井手麻子さん。

私は東京生まれの東京育ちです。移住のテーマはエコというよりサバイバルで生きていくためです。2017年7月に、家族で山梨に移住しました。食料危機に備えて農業、3年間、川口式自然農を学びました。健康危機に備えホメオパシー。ここ山梨で半農業、半ホメオパシーで活動しております。サバイバルといえば備蓄です。我が家の備蓄の一部を紹介します。食料備蓄は米籾付きを一年半を備蓄しています。あとは油、塩、水、それに野菜の種、種は大事です。味噌、醤油、それに豆、干し椎茸、煮干し、等の乾物、調味料、缶詰、各種飲み物など。生活用品はレメディー類、衛生用品、ランプ類、乾電池、燃料、カセットボンベ、ペット用品。

田舎の良いところはこういったものを保管する場所を確保しやすいんですね。都会に比べて。

そして食料備蓄をすすめる理由は感染症対策、災害対策、食料危機対策のため。食料危機のために食料備蓄。

1番の対策は、自然農による家庭菜園なんです。川口式自然農というのは、耕さず、肥料、農薬を持ちいず、草と虫を敵とせずという農法です。なかなか上手に作れません。うまくいかないのが自然農の魅力かなと思っています。思うようにいかないから収穫の時は、本当にありがたいなぁと思うのです。

一人でも多くの方に自然農に興味を持って頂きたいと思います。そこで我が家の田畑を紹介したいと思います。田んぼです。お米づくりは、今年で8回目です。2反の田んぼで稲作。化学肥料、除草剤は使わない。機械植え、機械刈り、天日干しでとっても美味しいお米ができます。若い方に是非、農業をやって貰いたいですね。

次に畑です。うちの畑は耕うんしません。草刈りはしますが刈った草は土の上に残します。化学肥料はなし。水やりは基本的にしない。

家庭菜園にふさわしい野菜があります。のらぼう菜です。秋に種を撒き、翌年3月、4月に収穫。大飢饉の際に人々を救ったと言われています。とても栄養豊富で作りやすいです。

野菜作りもホメオパシーと同じように、習うより慣れろということです。食料危機を乗り越えるには家庭菜園が1番です。地産地消です。これをキッカケに野菜を少し作って見ようかなという気持ちになって頂ければ本当に嬉しいなぁと思います。食料備蓄ですね。種です。一人でも多くの方が自然農に興味を持ち、また実践して頂きたいと心から願っています。

この後に、来賓講演。無肥料栽培農業者・「たねのがっこう」主宰である岡本よりたか氏。

映像業界、ＩＴ業界を経て農業に転身したご自身のヒストリーを重ね合わせながら「商品を使い捨て、自分を使い捨てる生き方」に疑問を持った体験が語られた。

化学肥料や農薬で土壌のミネラルや微生物を奪う〝収奪型農業〟ではなく、土壌菌や土の中の命と植物に栄養を与える自然農法を第二の人生として選択したものの苦難の年月を過ごした。試行錯誤しながら種を買わずに自家採種した結果、野菜の収穫量が上がり「お金は使えば減っていくけど、種は獲って使えば増えていく。種は安心感を与えてくれる」という真理にたどり着きました。

その後、遺伝子組み換えやゲノム編集の問題に強い関心を寄せ、固定種・在来種を守る活動に。

「企業によって登録と独占されてしまう前に、固定種在来種の種取りと生産に圧力がかかる前に、今のうちに種を集めなくてはいけない」と、登録品種の育成者権をめぐる種苗法の問題について力を込めて語った。

本来の食料安全保障とは、頼らず自給していくこと。農薬、化学肥料、種を海外からの依存している現在の農業では「実質的な食料自給率はゼロに近いのではないか」と指摘。依存しない生き方が、今後の鍵となるという事を語った。